



一般社団法人 日本建築学会

東北支部年報

第 36 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15

日本生命仙台勾当台南ビル 4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

細分化社会における建築を考える

東北支部長 源榮 正人

建築の分野に携わるものはデザイン系とか、エンジニアリング系といった表現を良く用いていますが、デザインとは何か？ エンジニアリングとは何か？改めて考える必要があります。デザインは、アーティスティックなセンスにより相手の要求に答えるものであり、エンジニアリングはサイエンスに基づき社会の要求に答えるものであります。地震に関する学問分野の話で恐縮ですが、地震学はサイエンスであり、地震の発生メカニズムは地震波の伝播特性など現象の解明を行うのに対し、地震工学はエンジニアリングであり、解明された現象に基づき、地震から人的・物的被害を低減するという社会還元が求められます。

新しいアイディアは「芸術と科学の融合」にあり、レオナルド・ダ・ビンチや寺田寅彦は憧れの人物であります。ユーザー目線からみたアートとサイエンスの融合は、デザインとエンジニアリングの融合であり、そこに「連携と協働」が求められます。この視点から、支部活動に関しても9つの部会活動の活性化と部会間の連携が求められます。建築構造技術者協会（JSCA）が行っている構造デザインコンテストなどの企画は賞賛すべきものであり、日本建築学会も建築系諸団体との連携による企画を積極的に推進すべきです。

建築に関する学問分野ばかりでなく、どの学問分野においても、時代の進化とともに細分化が進んでいます。細分化した研究分野のつなぎ目に生じがちな弱点をなくし、つなぎ目が見えない、シームレスなものでなければなりません。細分化・複雑化した社会において、お互いが刺激しあって長所をくみ上げ、より良いものが生み出される仕組みが必要であり、逆に、足の引っ張り合いによる平均的で弱点のない体制ではこれからの国際社会への対応が懸念されます。

震災から5年が経過しました。今年度の支部活動の一つとして、本部災害委員会との共催で、市民講座シンポジウム「東日本大震災からの復興の歩み～これからの地震に備える～」を開催し、東日本大震災からの復旧・復興に関する活動や状況や、来るべき今後の地震に備えた防災・減災対策について国内外への情報発信の一環として、市民の皆様へ伝えました。東北地方における地域性と国内の他地域や世界中で通用する共通性に着目した情報発信が必要のように思います。

恒例の支部研究報告会は「みちのくの風2016 宮城」として東北大学青葉山キャンパスを会場に6月18日（土）～19日（日）に開催いたします。会員各位の多数の参加をお待ちしております。

もくじ

○巻頭言	1
○企画記事	2
○第36回東北建築賞作品賞選考報告	6
○第36回東北建築賞研究奨励賞選考報告	8
○第26回東北建築作品発表会報告	9
○第35回東北建築賞表彰式及び展示会報告	9
○日本建築学会作品選集2016 東北支部選考経過	9
○2015年度設計競技東北支部審査報告	10
○2015年度東北支部研究報告会報告	10

○2015年度東北支部建築デザイン発表会	10
○2015年度日本建築学会東北支部総会報告	11
○研究部会活動報告	11
○支所だより	15
○支部役員会から	17
○支部役員名簿	18
○2015年度事業報告	19
○2016年度事業計画(案)	21
○法人・賛助会員名簿	23

企画記事

「みちのくの風 2015 山形」開催報告

常議員（総務企画） 永井 康雄

2015年度東北支部研究報告会「みちのくの風2015山形」は、2015年6月20日（土）・21日（日）の二日間、山形市の山形大学地域教育文化学部（小白川キャンパス）を会場にして開催された。発表論文題数は、環境系17題、計画系26題、構造系29題、材料施工系16題、今年度より始まった建築デザイン発表会7題の合計95題であった。

初日の午後は、（株）ネイ&パートナーズジャパン代表取締役の渡辺竜一氏による「美しいデザインを地域と共有する～構造と意匠の融合の先に～」と題する計画系の招待講演があり、コンセプトをストーリー化する方法、伝えるためのプレゼンテーション、地域の人々とデザインを共有するための手法などについて、欧州や日本で実施したプロジェクトの事例に基づいて解説された。招待講演に続いて第35回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会、建築デザイン発表賞表彰式が行われた。夜は山形大学厚生会館において懇親会が開催された。

二日目の午後は、東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻准教授の五十嵐規矩夫氏により「薄板化鋼構造部材の可能性と座屈設計法」と題する構造系の招待講演があった。H形断面梁の大断面化に伴いウェブ要素の薄板化が要求されるが、構成要素の応力状態や境界条件を見直すことによって可能となった幅厚比制限値の緩和、合理化策について紹介された。

更に、二日間にわたり第35回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA山形等作品展示並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会が山形大学文化ホールにおいて開催された。何れの企画も盛況で無事に終了することができた。関係各位に深く感謝申し上げる。



講演の様子

(ネイ&パートナーズジャパン・渡辺竜一先生)



講演の様子

(東京工大・五十嵐規矩夫先生)

震災からの復興の歩み～これからの地震に備える～」が開催された。本シンポジウムは、東北支部・災害調査連絡会と災害委員会の共催で、東日本大震災からの復旧・復興に関する活動や状況、来るべき今後の地震に備えた防災・減災対策について、市民の皆様へ伝えることを目的としたものである。参加者は約100名であった。

シンポジウムは2部構成で、最初に前田匡樹（東北大学教授・災害調査連絡会主査）より開催挨拶とともに趣旨説明を申し上げた。第1部では、「東日本大震災からの復旧・復興の現状」と題して、平野勝也（東北大学准教授）、増田聡（東北大学教授）、野村俊一（東北大学准教授）、中村紀吉（東京電力）、石井慶造（東北大学教授）の5名の講師から、まちづくりや経済復興に関する課題と現状、歴史的建築物の復興の現状、福島第一原発事故に対する原発の現状や福島県及び隣県における地域環境への影響に関する現状といった、一般に具体的には発信されていない復興の現状について、様々な分野の専門家から報告された。第2部では、「これからの防災・減災に対する備え」と題して、板垣直行（秋田県立大学教授）から木造建築の取組み、三辻和弥（山形大学教授）から振動に対する地盤の被害と対策、迫田丈志（堀江建築工学研究所）から津波に対する避難ビルの整備、といった主に地震・津波に対する建築の防災対策について報告された。並びに、最終講演者の針生勝広（仙台市）からは、仙台市が取り組む防災・減災対策の詳細について紹介された。最後に源栄正人（東北大学教授・東北支部長）からの閉会挨拶をもって終了した。

我が国は、今後数十年のうちに南海トラフ地震をはじめ大地震に見舞われることが予想されている。東北支部では、災害に対する知識・情報を発信し続け、防災・減災対策に直結できる活動を実施していく予定である。



平成 26 年度・27 年度

宮城県近代和風建築総合調査活動報告

東日本大震災からの復興の歩み

～これからの地震に備える～ 報告

日本建築学会東北支部 災害調査連絡会
主査 前田 匡樹

2015年11月2日（月）に、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターにて、市民講座シンポジウム「東日本大

歴史意匠部会 部会長 崎山 俊雄

江戸時代末期から昭和初期にかけて、木造建築の伝統的技法は最盛期を迎える。この時期、社寺建築のみならず、住宅や公共建築においても、江戸時代から引き継がれた技術を発展させて、全国各地に見るべき建築が数多くつくら

れた。これらは「近代和風建築」と称され、近年、建築文化財として広く認知されつつある。

本活動は、平成26年度・27年度に宮城県が実施した「近代和風建築総合調査」を本支部歴史・意匠部会が受託し実施したものである。調査には12名が参加し、平成26年度には1次調査と2次調査を、平成27年度には3次調査と報告書の作成を、それぞれ行った。

1次調査では、事前に各市町村教育委員会によって行われた予備調査を踏まえつつ悉皆調査を行い、1,702件の1次リストを作成した。また2次調査では、これらより絞り込みを行った主要遺構481件について、建物の沿革や特徴を調査し、一定の価値付けを行った。

3次調査では、2次調査を踏まえて抽出した重要遺構約50件について、図面の採取、写真撮影、所有者への聞き取り等を実施した。またその上で、2ヶ年に渡る調査の成果を報告書としてまとめた。報告書には概論、特論、および個別解説を記述し、巻末には1次・2次リストを付した。特論では技術者（地元大工、出稼大工、技術官僚）や近代和風建築の成す特徴的な景観（天然スレート建築、長屋門、板倉及び恩賜倉庫）について取り上げ、個別解説では、農漁家、商家、邸宅、社寺、旅館、料亭、醸造所の種類別に重要遺構を選定して論じた。

本活動は、報告書の刊行をもって一応の完了を見た。しかしながら、このような調査活動は、単なる記録作成のために行われるものでは勿論ない。より多くの建築遺産が保護制度の俎上に乗れ、また各地域で建築文化財の保護・活用の機運が高まるよう、成果の社会への発信と還元を目指して、歴史・意匠部会では次なる活動展開を視野に入れている。

山形支所 2015年度「親と子の建築講座」活動報告

山形支所長 相羽 康郎

日時：2015年11月17日 13:50～15:00

場所：山形県山辺町山辺中学校

対象：同中学2年生約150名その他約10名（教員およびJIA関係者）

JIA協力のもと、今年3月から授業を開始したばかりで、校庭も整備中の山辺中学校で実施した。時間割りを調整してもらい、中学校では珍しい階段教室を使って、学校的设计および建築家の情報、建築の教養としての情報を伝え、親にもその話を伝えてもらう意図で行った。

1コマ目 「地の街並み 図の建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）

地の建築として大工・工務店によって造られてきた街並みに対して、建築家は図となる様式建築、近代以降は公共住宅や国際様式、現代の自由な形態の目印作品を創作して

きた。大正まで日本の街並みは揃いの景観を維持していたが、近代以降個別バラ建ちとなり、近年建築家設計の街並み住宅地が出現し始めたことなどを講義した。挙手により、住まい体験は1戸建てが殆どでアパートが数割、最後5尺の住みたいまちは、「街並みのある一般住宅地」と「建築家設計の街並みのある住宅地」が多かった。中学生は講義内容を気に入ったようだ。



中学校校舎建築へ質問の様子

2コマ目 「建築家の仕事」：水戸部裕行（羽田設計事務所）

建築家が設計をした作品、プロポーザルコンペで提案した内容、ワークショップの様子、摩擦杭を始めとする工事過程、竣工当時の様子などを講義し、階段教室の前面部に置いた大きな模型、分厚い設計図書を講座終了後クラスごとに見学しその場でも質問を受けた。講義直後の質問では、先生も気の付かなかった校舎の使い勝手等に関わる質問が次々に発せられ、生徒の関心の高さを伺わせた。昔の校舎も含め一般的な校舎との差に対する中学生なりの疑問に、設計者として説明するよい機会ともなった。



中学校の模型に興味津津の様子

歴史意匠部会 2015年度「親と子の建築講座」活動報告

歴史意匠部会 部会長 崎山 俊雄

（報告 相模 誓雄）

● 「体験しよう！「伝統構法」の家づくり vol. 2」

日時：2015年9月26日（土）10:00～12:00

場所：宮城県名取市名取が丘4丁目26-2 馨香庵

対象：小学生13名、保護者等12名

目的：

近年の震災や所有者の世代交代などによって歴史的建築が失われることが散見される。東日本大震災では、その地震動の特性により土蔵の被害が多く、多くの土蔵の壁が剥落、崩落した。しかし、未だ壊れたままの土蔵を多く見かける。あるいは、サイディング・乾式工法で仮修復したものの、剥落したなまこ壁をモルタル塗りで修復したものがあり、これらの方法で修復された土蔵は本来の美しい姿が失われている。子供たちや家づくりを考えている人たちにも、歴史的建築の魅力や意義について理解を促し、関心を持ってもらう必要がある。また、伝統構法を習得した職人の後継者を養成していくことも重要である。このようなことから本講座では、子供たちに壁土づくから木舞下地の壁に壁土を塗るまでの課程を体験してもらう。親にも子供と協働して壁土塗りを行っていただき、手作りによる家づくりの楽しさを体験していただく。

内容：

①レクチャー

馨香庵土間において。まず、熊谷広子さんから子供たちへ伝統構法の家についてお話をし、2人の講師を紹介した。次に、筆者が学会東北支部会員として参加者の皆様に挨拶をして体験実習に移った。

②壁土づくり

同裏庭において。馨香庵の千葉さんが、仮設のプールに土、水、短く切った藁を入れて1か月寝かせた壁土を用意してくださった。藁の腐食が進み臭気があり、なかなかよい感じである。これにさらに短く切った藁を混ぜ込んで本日使う壁土をつくる。13人の子供たちがプールに入り、足で踏んで藁を混ぜ、20分ほどで一応壁土が出来上がった。(写真1)



写真1 壁土づくりの様子

③壁塗り

裏庭において。馨香庵の千葉さんが、木舞下地壁を用意してくださった(写真2)。これに壁土を塗る。木舞下地壁の詳細は以下。柱は(長さ184cm)3本で、間隔は74cm。その上下端を9cm角の角材で繋いで枠組みを形成している。地貫、胴貫、内法貫(各9cm×1.5cm)の間隔は72cmほど。間渡し竹(割竹)の間隔は45cm以内、木舞竹(籐竹)のそれは4cmほど。木舞竹は搔き縄で間渡し竹にとめてある。なお、木舞竹については、壁の片面は横、反対面は縦にし、横材は2本ずつ、縦材は1本ずつである。

左官技能士の原田さんから壁土の塗り方の説明を受ける。1尺四方ほどの取手付き板に②で作製した壁土を盛る。金属製の鏝の腹に十分な壁土を取り、その鏝を下から上へ向かって動かしながら木舞下地壁に塗り込む。木舞の裏面に土がはみ出すくらいぎゅっと押し込む必要がある。まずは子供たちが試みるが、小学生は、壁土をうまく鏝の腹に取れない。また、腕力がないので、十分な壁土を取れず、塗り付けられないでいる。なかなかかどらないので、親も試みる。うまく塗れない子供たちの関心が遊びへと移っていく中で、終了時間になってもやめない子供もいた。うまく塗るには、力や修練、なにより根気が必要である。しかし、次第に土壁が出来上がっていく(写真2)。筆者も前記の板に3杯分の壁土を塗ってみた。粘り気のあるよい壁土であったので比較的容易に塗ることができた。実習終了時には、壁両面の7割ほどが塗りあがった。

子供たちの中には、また来年もやりたいと言った者もいた。親にとってもよい体験であったようである。親と子がいっしょになって楽しく体験実習ができた。



写真2 壁塗りの様子

謝辞：

当日は、朝から雨であったが、千葉さんがブルーシートのテントをこしらえてくださり、小雨の中でも体験実習を行うことができた。また、馨香庵の内外を会場として提供してくださった。原田さんも、お忙しい中左官の技術を丁寧に指導してくださった。千葉幸一郎さん、海子奈月さんには、準備、片付け等の運営に多大なご協力をいただいた。心より感謝申し上げます。

環境工学部会

2015年度「親と子の都市と建築講座」

冬の避難所でどう過ごす？

～避難所運営のゲーム体験ワークショップと講演～

活動報告

環境工学部会 部会長 小林光

日時：2015年10月24日 13:00～16:30

場所：宮城教育大学附属図書館 1F スパイラルラボ

対象：小学生2名、保護者他14名

目的：

大規模な地震や気象災害が発生すると、インフラが途絶えた状況で避難所生活を強いられます。それが厳寒期だったとしたら、私たちはどのように過ごせばよいのでしょうか。本企画は、このような極限状態を想定して、避難所での行動をシミュレーションしたゲームと避難所宿泊の体験談に関する講演を行い、被災経験を今後に生かすための情報交換を目的としています。

内容：

開催に先立ち、運営者で司会の菅原より本企画の趣旨説明がなされた。寒冷地である東北において東日本大震災よりも更に寒冷な時期に災害が起きたら、何にどう備えるのかという気付きからスタートした学会支部活動を通じて、既に北海道で進められている厳寒期の避難について取組みを知り、そこで中心的に活動されている、北海道大学の森先生、厳寒期の避難の演習に取組まれている日本赤十字北海道看護大学の根本先生を講師にお招きした勉強会を企画することとなった。

(1) ワークショップ「体験！寒冷地版避難所運営ゲーム（北海道版 HUG）」

講師の森太郎先生より HUG 北海道版についてご紹介頂くと共に、参加者を3チームに分けて実際に HUG を体験した。HUG (Hinanzo Unei Game)とは、静岡県で開発された、避難所での行動をシミュレーションしたカード形式のゲーム。北海道版 HUG は、オリジナルの HUG に寒冷地の避難所で想定される様々なイベントを加えた発展形となっている。HUG の体験では、小学生、大学生、大人の混成チームで、小学校の体育館と教室からなる避難所を仮想的に運営した。カードが次々に提示するイベントに対処していく過程で、東日本大震災の避難経験から当時の避難所の話や気付きなどが示され、短時間のゲームでありながら、極めて内容の濃い体験となった。



参加者による HUG の体験風景

(2) 講演「厳冬期 (-20℃) の避難所体験から見てきた冬の方が一への備え」

講師の根本昌宏先生より、実際に厳寒期の避難所で生じる様々な事象について紹介頂いた。停電に伴って電気を使用するすべての暖房機が停止すると、極めて寒い状況では命

を落とす危険性が生ずるにも関わらず、対策は手薄であることが多い。低体温症や肺塞栓症にならない休息・睡眠環境や衣服・食事の準備が、自助の第一段階で、それに役立つ具体的な物品が紹介された。また、灯油やガスによる暖房の際、透湿性の無い保温フィルム等は内部結露を生じてむしろ危険であること等、平常時の住環境と大きく異なる温度条件下での注意点を大変良いテンポで次々と講義頂いた。食事と衛生面については、災害救助用炊飯袋（ハイゼックス包装）を用いて、会場で蒸しパンを作る実演を交えてご紹介頂いた。この調理法のポイントとして、衛生的で洗い物が出ないことや、非常食ではなく通常食を避難状況下でも食べられる事の優位性等が示された。重いテーマでありながら大変楽しいご講演であった。



ハイゼックスシートで作った蒸しパンを参加者全員で試食

(3) 情報交換

まず、コメンテーターの伊藤芳郎先生(宮城教育大学教育復興支援センター特任教授、東日本大震災当時は三条中学校長)から、震災当時に避難所運営した経験に基づくさまざまな示唆を頂いた。三条中学校のある地域の特殊性として、留学生の避難者が数多く集まった事例を挙げ、HUG などを利用した市民活動を通して地域特有の問題を把握しておく必要性が指摘された。また、講師の先生方からは、非常事態に備えて「知る力」が大切であることや、防災に関わる人材が圧倒的に少ない現状について話された。参加者からは、被災経験を踏まえながら、北海道版 HUG の体験と講義に関する感想が述べられた。最後に、運営者でコーディネーターの小林により、まとめが述べられた。

謝辞

本企画の開催にあたり、日本建築学会北海道支部、宮城教育大学教育復興支援センター、空気調和・衛生工学会東北支部、建築設備技術者協会東北支部、電気設備学会東北支部、日本技術士会 東北本部 衛生工学・環境・上下水道部会、住まいと環境 東北フォーラムからご後援を頂いた。また、仙台市教育局学校教育部教育指導課、(株)河北新報社、(株)ホクトコーポレーションには、開催案内の広報にご協力を頂いた。ここに記し、感謝の意を表す。なお、開催の様子は建設新聞(第17283号、2015年10月30日付)に記事として掲載された。

第36回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 小杉 学

1. 応募作品

- ・小規模建築物部門 5点
- ・一般建築物部門 23点
- 計 28点

2. 選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2015年9月9日(水)

13:30 ~ 15:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2015年10月3日(土)

10:00 ~ 16:30

於 せんだいメディアテーク7階スタジオシアター

第26回東北建築作品発表会において応募28作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第1次審査 2015年10月3日(土)

16:50 ~ 18:00

於 せんだいメディアテーク2階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第1次審査を行った。小規模建築物部門、一般建築物部門を別々に選考せず、全作品の中から半数程度に絞ることを目標に一人10票を投票することとなった。岩田委員は自身が携わっている作品が2作品エントリーされているとのことで、8作品を投票することとなった。各委員が各々10票を投票した結果得票数順に7票~4票までの14作品を第1次審査通過とした。

以上の結果、小規模建築物部門3点、一般建築物部門11点の合計14点を第1次審査通過とした。

次に、現地審査は1作品につき2名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された14作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1次審査の落選者へは200字程度の講評を選考委員分担で作成し、選考委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月と12月に選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2016年2月6日(土) 13:00~17:30

於：日本建築学会東北支部会議室

小杉委員長より全体の進め方について、今期は小規模建築物部門が3作品と少ないため、小規模、一般の垣根なく議論して選考する事が提案された。小規模建築物部門ならびに一般建築物部門について、1作品ずつ現地審査担当委員からパワーポイントなどにより報告を受けた後、現地を確認した担当委員の印象等を確認した。作品についての質疑、審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行った。

今期は投票をせず、賞に値するか否かを各委員の意見で決める方法とした。その結果、小規模建築部門2作品、一般建築部門3作品を建築賞とする事が決まった。うち1作品を特別賞とする事も議論されたが、特別賞の位置づけに関する明確な定義が無い事もあって、全てを建築賞とする事となった。

なお、賞の数については、募集要項で「作品賞は原則として小規模建築物部門4点以内、一般建築物部門4点以内」としている。

(6) 選考結果

作品賞 5点

富谷ファミリーメンタルクリニック

【所在地】宮城県黒川郡富谷町上桜木2-3-6

【設計施工】SOY source 建築設計事務所

【構造設計】市場建築構造設計事務所

【施主】佐藤宗一郎

【施工】株式会社巧友技建工業

i-HOUSE

【所在地】青森県むつ市

【設計監理】松浦一級建築設計事務所 松浦良博

【施工】(有)松浦建設

二本松市立とうわこども園

【所在地】福島県二本松市針道字大町西46番地

【設計監理】(有)辺見美津男設計室

【施主】福島県二本松市長

【施工】建築：(株)ヤマニ建設

電気：三友電設(株)

機械：(株)野地工業所

庄内町ギャラリー温泉 町湯

【所在地】山形県東田川郡庄内町余目字土堤下 35 番地 2

【設計監理】建築：設計・計画高谷時彦事務所

構造：レン構造設計事務所

設備：日本エアコンセンター

グラフィック：高城豪

【施主】庄内町

【施設運営】イグゼあまるめ

【施工】統括・建築：菅睦建設

空調・衛生：板垣建設管工

電気：ユアテック

塩竈市杉村惇美術館

【所在地】宮城県塩竈市本町 8 番 1 号

【設計監理】(株)鈴木弘人設計事務所+東北芸術工科大学

【施主】塩竈市

【施工】(株)鈴木工務店

(7) 講評

作品賞

【富谷ファミリーメンタルクリニック】

人は様々な悩みを抱えている。相談したいと思うときの空間、建築家はそれを実現できるのだろうか。

この作品はメンタルクリニックです。クリニックと言えば病院というイメージが付きまといますが、そこに着くとはたして柔らかい木の外装が人を迎え入れてくれます。中に入ると適度に配置された 5 カ所ある中庭から柔らかい光が注ぎ込む空間が現れます。この中庭は単に光を導入するための空間ではありません。そこには美しく手入れされた樹木が植えられ、そのガラスに隠された中庭空間の陰に椅子が配置されており、そこに癒しを必要とした人々が座ります。受付からはガラス越しに診察を待つ人々が認識できます。管理ではない管理。それがこの作品の真骨頂です。照明も、換気扇も少し隠れた天井の矩形に納められ、自己主張をしません。これが本当の癒しの空間です。

院長と婦長にお話をお伺いしました。すべては患者の安心のためと説明を受けました。設計者も決して建築を語りません。患者さんのためにと。これこそがファミリーと名を冠したメンタルクリニックではないでしょうか？

審査会では軒の出がないことによる外装の汚れや外装木壁の寿命に関する問題点も指摘されましたが、この空間のもつ安心感はメンタルクリニックという名に相応しく、東北建築賞とすべき価値ある作品です。

【i-HOUSE】

東北の住まいでは、常に冬の寒さ対策が問われます。一方で 3 月から 11 月にかけての東北の気候は、非常に快適です。外気を適度に取り入れることにより快適な室内環境が得られますが、特に夏季を中心とした季節では逆に速やかな排熱のための大開口による通気が必要です。

i-HOUSE はこの意味で意欲的な作品です。我が国の田の字型プランに土間のついた伝統的な民家のプランを踏襲し、この土間空間を大開口のついた無断熱とし、春、夏、秋の東北の快適な気候に対応した楽しい空間としています。また冬には土間以外の住まい部分を高断熱高気密化し、この土間空間を外部と住まい部分との緩衝空間としています。土間以外の高断熱高気密化された部分は、基本的に吹き抜けや続き間となっており、各部屋は冬に温度差のない環境を創出しています。

この住宅は設計者が震災復興に向けて、快適でかつ東北らしさや東北の伝統的文化を支える家のプロトタイプとして考えていたもので、このコンセプトをクライアントが気に入り実現したものだそうです。

審査会に於いては、開口部のとり方や、意匠的な外観について更に工夫が期待されるとの意見もありましたが、新たな東北の気候風土や通年を通じての生活スタイルに対応した意欲的な作品であり、東北建築賞に相応しい住宅作品です。

【二本松市立 とうわこども園】

震災による計画の見直し、放射線による周辺からの配慮など子供の空間を計画する上で困難と感じる条件を丁寧に読み解いた建築です。

地域の祭りをイメージした意匠により、日常的に利用するアプローチ空間をはじめ、賑わいと華やかさにより魅力ある外観に寄与していると考えます。

職員室とエントランスの見通しを確保しつつ、乳幼児をはじめとした園児の空間と活発に活動する園児の空間と明確に分ける事でお互いの存在を意識しながら共存する計画について、年齢以上に身体能力の差を生じる園への配慮と感じられました。特に、放射線の影響から内部に閉じなくてはならない問題を想定すると違う年齢の園児が同一の時間に活動できる点は単に時間的に分ける解決案と異なる視点であると言えます。

また、ハイサイドライトの活用で廊下・保育室に光が注ぐ空間を演出しています。

さらに、断熱をはじめ温熱環境の丁寧な計画とともに、太陽光を活用した環境への配慮など高く評価されました。

【庄内町ギャラリー温泉 町湯】

町並みに、毅然として自己表現を貫いている「庄内町ギャラリー温泉 町湯」は、敷地形状により町屋を考え、そこから導き出された空間構成を模倣しながら、見事に現代の町湯を完成させています。結果、町並みに見事に調和し、異質のデザインに同化させています。外観は、簡潔なデザインとし、質素に見せながらディテールの隅々まで繊細にデザインされており、設計者の力量を感じます。内部空間は、土縁ギャラリーを軸に休憩スペースと入浴スペースが一体化して、心地よい空間が出来上がっています。町屋の坪庭を露天風呂に置き会える遊び心も、見るものに好感を与えます。残念なのは、土縁そのものが、空間の中で浮い

第36回東北建築賞研究奨励賞選考報告

選考委員長 許 雷

てしまっていることで、運営者と設計者の思いの違いが招いた部分と思われます。設備計画も温泉を使った空調、温泉排水を使った便器等へ使われ、環境にも十分配慮されています。

全体として、非常に完成度の高い建築であると思われます。町屋をキーワードとして、すべてを関連付け完結したデザインは、見事な作品と評価します。

【塩竈市杉村惇美術館】

この美術館は、1950年に建てられた公民館を転用してできたものです。リノベーションという手法は、欧米では有名建築家による多くの例が知られていますが、わが国では既存の建物を活用することが注目されるようになったのはつい最近のことです。

旧公民館は、塩竈市民から長年にわたって大事に使われてきました。とくにかつて図書室であった2階の部屋は、ヴォールトのような木造の曲面天井で覆われていて、単純に見える外観からは想像できない興味深いものです。また、外壁や柱廊には地元産の塩竈石が全体に用いられていることも親しみを感じさせます。そして、1957年に増築された大講堂については、当時の技術ではまれな集成材によるアーチからなる独特の形態であるため、地元の人々にもしっかりと記憶されていたにちがひありません。

このように元の建物が魅力的であったからこそ、転用する方針に傾いたのでしょう。けれども、自由に新築するよりも、元の建物をうまく活かしながら設計するほうがはるかに難しく、建築家の力量が試されるのです。設計者は既存の建物への深い敬意と理解に基づいて、リノベーションを手がけたことにより、さらに価値を高めることに成功しています。今後も市民の誇るべき施設として地域社会の発展に貢献しながら、継承されていくことが期待できます。

以上の理由により、本作品は東北建築賞にふさわしいものと高く評価されました。

第36回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長

小 杉 学 東北工業大学ライフデザイン学部

委員

岩 田 司 東北大学災害科学国際研究所

最 知 正 芳 東北工業大学工学部建築学科

飛ヶ谷 潤一郎 東北大学大学院工学研究科

恒 松 良 純 秋田工業高等専門学校環境都市工学科

西 脇 智 哉 東北大学大学院工学研究科

大 野 晋 東北大学災害科学国際研究所

橋 本 典 久 八戸工業大学土木建築工学科

茂 木 聡 株式会社ライフデザイン建築研究所

池 田 匠 株式会社 渡辺左文建築設計事務所

小 林 光 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

本年度の研究奨励賞について、建築デザイン教育分野と材料分野から2件の応募があった。まず、材料分野について専門に近い選考委員2名による予備審査を行った。また、建築デザイン教育分野については専門に近い選考委員1名による予備審査を行った。その結果、候補論文として2件とも審査することとなり、2015年11月13日に選考委員会を開催した。当日の出席委員は7名で、欠席委員は各々に審査報告書および委任状が提出された。審査対象論文、業績説明書、候補推薦書、及び欠席委員から提出された審査報告書に基づき審査を行った。最終的には小地沢将之氏の「建築系インターシップの満足度評価」を研究奨励賞に決定した。

近年、建築系教育機関では、インターシップの導入・カリキュラム化が進んでおり、その成果は十分に明らかにされていないのが現状である。

候補者の小地沢氏は建築系教育機関におけるインターシップ及び実施効果を研究対象としており、実習内容、志望分野、実施期間、学生の進路志望状況、成績などの追跡より、インターシップの満足度を定量的に評価することを目的としている。アンケート調査などを通して長期間にわたって、詳細なデータを記録・解析し、インターシップ満足度が低い場合、学生が進路選択を変更する傾向が強いことを確認した。また、ロジスティック回帰分析を通して、インターシップ満足度は実習内容の多様性に強い影響を受けることを結論した。建築教育における理論実践型インターシップの重要性を示しており、実習内容の充実性を含む建築教育プログラムの改善に大変有益なものと評価された。

今後では、この研究を発展させ、インターシップの受け入れ企業を対象とした調査なども進め、より一般的なインターシップの実態を調査し、その改善点などを提案できれば、建築教育効果の向上に寄与できると期待している。

一方で新規性についての指摘もあったが、実務と大学教育の接点となるインターシップは重要視されており、今後の大学教育におけるインターシップの在り方に一石を投じるものと評価し、選考委員会では研究奨励賞に値するものとして決定した。

第36回東北建築賞研究奨励賞選考委員会

選考委員長

許 雷 東北工業大学工学部建築学科

委員

木 村 祥 裕 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

三 辻 和 弥 山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科

山 田 寛 次 秋田県立大学システム科学技術学部

Sanjay PAREEK 日本大学工学部建築学科

飯 藤 将 之 仙台高等専門学校建築デザイン学科
 石 井 敏 東北工業大学工学部建築学科
 山 本 和 恵 東北文化学園大学科学技術学部建築環境学科
 増 田 聡 東北大学災害科学国際研究所
 崎 山 俊 雄 秋田県立大学システム科学技術学部
 速 水 清 孝 日本大学工学部建築学科
 小 林 仁 仙台高等専門学校建築デザイン学科
 平 岡 善 浩 宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
 小 林 光 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻

松良純作品賞選考委員長より選考経過報告と講評が行われた。続いて源栄支部長より各受賞者に賞状、賞杯が贈呈された。なお、本年は東北建築賞研究奨励賞部門への応募が無く受賞はなかった。表彰後、受賞者から受賞作品の紹介が行われ、またその後の懇親会では、受賞者を交えて交流が図られた。

本表彰式および展示会は、受賞者並びに作品応募者の方々、山形支所の関係者・スタッフ、選考委員長はじめ選考委員、日本建築家協会東北支部の方々の準備と協力により開催することができたものであり、関係各位にこの場を借りて深く感謝申し上げる。

第 26 回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会文化) 小林 光

平成 27 年 10 月 3 日 (土) に、せんだいメディアテーク 7F スタジオシアターにて「第 26 回東北建築作品発表会」を開催した。本発表会は、「東北地方におけるすぐれた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場とし、もって東北地方の建築にとっての共通課題の探求にあたること」を目的としている。本年度は小規模建築物部門 5 作品、一般建築部門 23 作品の計 28 作品の発表があった。作品数に関して、ここ数年の中では一般建築部門が多い反面小規模部門は少ない発表会となった。

来場者に対して作品賞選考委員会より発表会、作品賞について簡単に紹介した後、小杉学選考委員長より発表にあたっての注意事項が説明された。その後の発表では、1 作品につき発表 8 分、質疑応答 2 分の短い持ち時間であったものの、設計者から作品のコンセプトやアピールポイントについて充実したプレゼンテーションが行われると共に、活発な議論がなされた。一般の参加者が若干少ないように感じられた。建築学科生には建築家のプレゼンテーションを学ぶ大変良い機会でもあるので、大学などを通じて積極的な案内を行い、より活気のある発表の場とするように努めていきたい。

第 35 回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会文化) 小林 光

第 35 回東北建築賞に関して、6 月 20 日(土)、21 日(日)に開催された「みちのくの風 2015 山形」の一環として、表彰式および作品展示会が開催された。東北建築賞の表彰式は、1 日目午後会場に山形大学地域教育文化学部 1 号館にて、また受賞作品パネル展示会及び JIA 山形等作品展示は、会期中の 2 日間に亘って、山形大学文化ホールにて行われた。本年の東北建築賞作品賞の受賞は、作品賞 5 作品、特別賞 2 作品の計 7 作品であった。表彰に先立ち、恒

日本建築学会作品選集 2016 東北支部選考経過

東北支部選考部会長 石田 壽一

本年の応募作品は昨年より 5 作品増え 21 作品であった。ここ数年、震災関連の応募案が過半数を占めていたが、本年は 7 作品に留まり応募傾向にやや変化が認められた。6 月末に現地審査の作品を投票により絞り込み、宮城 9 作品、福島 3 作品、山形 2 作品、岩手 1 作品の計 15 作品を選出した。7 月末から 8 月上旬にかけて、各々の作品の現地審査を 2 名以上の委員の帯同により実施し、8 月 11 日に委員全員による宮城・仙台市内の作品審査を行った。同日、支部最終審査を行い本部推薦作品として 8 作品を選出した。A ランク 3 作品、B ランク 3 作品、S ランク 2 作品のうち、本部選考では A ランク 3 作品、B ランク 1 作品、S ランク 1 作品が採択された。5 作品中、木材を活用した建築作品が 4 作品含まれている。復興住宅への適用をめざした開発モデルや地域経済の核となる大型木造建築など、東北地方の豊かな地元木材を有効活用した建築の特徴が顕在化した結果となった。

《委員》

部会長	石田 壽一	(東北大学)
委員	速水 清孝	(日本大学)
	木曾 善元	(木曾善元建築工房)
	福屋 粧子	(東北工業大学)
	鈴木 雄二	(八洲建築設計事務所)
	水戸部 裕行	(羽田設計事務所)
	菅原 紀昭	(設計集団次元分室)

2015 年度日本建築学会設計競技 東北支部審査報告

審査委員長 坂口 大洋

日時：平成27年7月14日（火）13:30～14:30

会場：日本建築学会東北支部会議室

課題：「もうひとつのまち・もう一つの建築」

応募総数：7点

委員の互選により、審査委員長として坂口が選出され、まず遅刻の応募作品 No.7 (30 分の遅刻提出) の取扱いについて議論を行った。作品に魅力はあるが、他の支部での取り扱いとの整合を図るため、失格とした。・応募規程「G審査方法」により応募総数 6 点の 1/3 に該当する最大 2 点を支部入選とすることを確認の上、全応募作品を審査した。6 作品について、1 審査員につき持ち点 2 票を投じ上位 2 作品を選出した。その後、支部から推薦した 2 作品について本部より応募者の会費納入がされていない理由により会員資格がないため、失格との連絡あり。

支部審査会で競技の上、会費納入がされている作品を確認し支部入選として 1 作品を本部へ推薦した。

【支部入選作品】選塩計画～陸と海のつながり～

災後の宮城県塩釜市港湾周辺の改修計画である。かつての塩釜港駅やその線路を手掛かりとして、敷地を読み解き機能と空間を再編し、新たなつながりを創出させる提案内容は一定の評価を得た。

また、大規模な再開発ではなく、小規模なプロジェクトと現実的なアプローチを前提とした姿勢も、現在の社会状況や地域条件とも符合する。これらの点から東北支部選出作品として推薦するものである。

他方、周辺を含めた港湾全体の将来像が不明確であるとともに、改修後の空間が利用者にとってどのように魅力となるのか、全体としてプレゼンテーションの質が不足しているなどの指摘もあった。

これらの点を含めて応募者の今後の奮闘に期待したい。

《委員》

委員長	坂口 大洋	(仙台高等専門学校)
委員	増田 聡	(東北大学教授)
	櫻井 一弥	(東北学院大学教授)
	手島 浩之	(UAPP)
	福屋 粧子	(東北工業大学准教授)

2015 年度東北支部研究報告会報告

常議員 (学術教育) 川村 広則

2015 年度東北支部研究報告会「みちのくの風 2015 山形」は 2015 年 6 月 20 日 (土)・21 日 (日) の両日、山形市の山形大学地域教育文化学部を会場に開催された。発表総数は、今年度新たに企画された建築デザイン発表会 7 題、計画系 43 題、構造系 45 題の合計 95 題であった。初日は 5 会場、2 日目は 4 会場に分かれて、建築デザイン発表会・環境・計画・構造・材料施工の分野ごとに活発な意見交換が行われた。初日の午後には計画系招待講演「美しいデザインを地域と共有する ～構造と意匠の融合の先に～」と題して、渡邊竜一氏 (株式会社ネイ&パートナーズジャパン代表取締役) による講演が行われた。同日夕方には、第 35 回東北建築賞表彰式並びに受賞記念講演会、建築デザイン発表会表彰式が行われた。2 日目の午前中には構造系招待講演「薄板化鋼構造部材の可能性と座屈設計法」と題して五十嵐規矩夫氏 (東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻准教授) による講演が行われた。両日を通じて第 35 回東北建築賞受賞作品パネル展示、JIA 山形東北支部作品展示ならびに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会が同文化ホールにて開催された。いずれの企画も多く参加者を集め、盛況のうちに無事終了することができた。報告会に参加された方々をはじめ、準備運営に関わった関係者各位には深く感謝申し上げたい。

2015 年度 第 1 回日本建築学会東北支部建築デザイン 発表会報告

建築デザイン教育部会 部会長 櫻井 一弥

2014 年度に設立の準備をしてきた「第 1 回東北支部建築デザイン発表会」は、2015 年 6 月 20 日 (土) 10:00～11:10、みちのくの風 2015 の一事業として、山形大学文化ホールで行われた。応募 7 講演のポスター掲示、ならびに発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介されるとともに、活発な質疑回答が行われた。講演の内容は、デザイン発表会らしく、個別の建物のデザインからリノベーション、ワークショップの運営に関わるものなど、様々な視点からまとめられた、バラエティに富んだものであった。

発表会終了後の同日 15:10～15:45 に、発表全体を聴講した建築デザイン教育部会の部会員 4 名で、辞退した 1 件を除く計 6 件の講演より 1 講演を選出し、建築デザイン発表賞の授与を決定した。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価し、票を投じて決定することとした。選考過程とその結

果については、第1回建築デザイン発表賞選考報告を参照されたい。

2016年度以降も同様の形式で本発表会を継続して実施していく予定である。会員諸氏からの応募を期待したい。

2015年度日本建築学会東北支部総会報告

常議員（総務企画）有川 智

日 時：2015年5月23日（土） 16:00～16:25

場 所：仙台メディアテーク7階スタジオシアター

出席者：117名（委任状含む）

資 料：

日本建築学会東北支部年報第35号

2015年度日本建築学会東北支部総会式次第

資料1-1：2015年3月31日現在 貸借対照表

資料1-2：2014年度 正味財産増減計算書

資料1-3：2014年度 同上（予算との比較）

資料2：会計監査報告書

資料3-1：2015年度 正味財産増減予算書内訳表

資料3-2：2015年度 正味財産増減予算書

資料3-3：2015年度 正味財産増減予算書

資料4：日本建築学会東北支部規定変更案

小地沢将之常議員による開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 出席者数及び委任状の確認

出席者42名、委任状75通、合計117名の確認があり、東北支部会員1,215名の1/30（41名）以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

2. 支部長挨拶

源栄正人支部長による挨拶があり、今年度の総会が通常通りに開催できたこと、東北支部の現状などが報告された。

3. 議事録署名員及び議長を選出

出席者の中から議事録署名員として、高橋典之氏及び小林光氏が選出された。また、東北支部規定により、源栄正人支部長を議長とした。

4. 議事

東北支部規程により、以下（1）（2）の事項について報告され、（3）の事項について議決が行なわれた。

（1）2014年度事業及び会計に関する件

1）2014年度事業

後藤伴延常議員より、支部年報17～18ページの「2014年度事業報告」に基づき、2014年度事業内容が報告され

た。

2）2014年度収支決算

笹渕優樹常議員より、資料1-1「貸借対照表」、資料1-2「正味財産増減計算書」、資料1-3「正味財産増減計算書（予算との比較）」に基づき、2014年度収支決算が報告された。

3）会計監査結果

監事欠席のため、有川智常議員より、資料2「会計監査報告書」の通り、2014年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が代読、報告された。

（2）2015年度事業及び会計に関する件

1）2015年度事業計画（案）

Sanjay PAREEK 常議員より、支部年報19～20ページの「2015年度事業計画（案）」に基づき、2015年度事業計画案が説明された。

2）2015年度収支予算（案）

笹渕優樹常議員より、資料3-1「正味財産増減予算書内訳表」、資料3-2と3-3「正味財産増減予算書」が説明された。

上記（1）（2）の報告内容について、特別な問題指摘などは無かった。

（3）日本建築学会東北支部規定の変更に関する件

後藤伴延常議員より、資料4「日本建築学会東北支部規定変更案」について説明された。

上記（3）の変更内容について、満場異議なく承認された。

以上の議事終了の後、司会者により閉会が宣言され、2015年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

研究部会活動報告

（1）歴史・意匠部会

部会長 崎山 俊雄

歴史・意匠部会は「歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究」を主題とし、これまでの活動の延長線上に平成27年度の活動を展開した。これらに関係して2回の部会員会議を開催し、また今年度は新たに、大沼正寛氏（東北工業大学）と西松秀記氏（東北歴史博物館）が部会に加わった。

今年度の活動の中心を占めたのは、昨年度に引き続き宮城県より当部会が受託して実施した「宮城県近代和風建築総合調査」活動である。調査には12名が参加し、今年度は3次調査（詳細調査）と報告書の作成を行った。重要遺構約50件について、図面の採取、写真撮影、所有者への聞き取り等を実施し、その上で、2ヶ年に渡る調査の成果を年

度内に報告書としてまとめた。

第二に、これも昨年度に引き続いてだが、「親と子の建築講座」を実施した。相模誓雄氏が中心となって、9月26日(土)、名取市において小舞壁塗り体験実習を行った。小学生以下の子どもたちと保護者、計25名の参加があり、盛況であった。貴重な体験となったようである。

第三に、解体の危機に直面する各地の建築文化財に対する支援活動があった。今年度は、以下の2件に対して保存要望書を起案し支部長名で提出した。1件は秋田県湯沢市の「旧雄勝町役場」(白井晟一、昭和31年)であり、もう1件は宮城県大崎市の「旧田尻町役場」(建築総合計画研究所、昭和33年)である。ともに市町村の再編が進む地方都市の旧役場庁舎で、昭和30年代前半期の建物である。いずれも保存か解体かの結論は未だ出ておらず、各地で部会員の奮闘が続いている。

当部会活動における社会貢献上の重要な柱は、建築文化財の価値を社会に伝え、多くの地域遺産を未来に継承することにある。今後とも地道な活動を展開していく必要があると考えている。

(2) 建築計画部会

部会長 坂口 大洋

東日本大震災の発災から5年が経過し、復興事業の進展に伴い、被災地ごとに状況はさまざまですが、復興事業の進展に伴い、嵩上げ工事、インフラの整備、災害公営住宅を中心とした公共施設などの整備などが進むにつれて、仮設住宅からの災害公営住宅への引っ越し、町びらきなど新たな様相をみせています。平成27年度の建築計画部会は、部会としての企画の活動は行っていないもののコアメンバーによる復興事業の課題の共有、次年度の活動方針について議論を行いました。他方建築計画部会の多くもメンバーは、東北支部における調査研究活動とリンクさせながら多様な活動を行っています。活動の一端を紹介しますと、昨年度末(2015年3月)に行われた小野田先生(東北大学)、坂口先生(仙台高等専門学校)などが関わった第三回世界国連防災会議および2015年5月に行われた東日本大震災4周年シンポジウムには、小野田先生、石井先生、佃先生、菊池先生が参加しています。また小野田先生を中心に、岩田先生、佃先生(以上東北大学)石井先生、有川先生(以上東北工業大学)菊池先生(岩手大学)浦部先生(日本大学)などが東北支部のメンバーから、東日本大震災特別調査委員会では、岩手・宮城WGと福島WGの二つのチームが多面的な調査研究を通して、被災地の復興の課題と今後への知見の整理を行っている。また同委員会では関連企画として、JIA東北支部と共同企画として2016年1月に石巻市、七ヶ浜町などの復興状況の視察、災害公営住宅の見学などのツアーを開催しています。

次年度、建築計画部会でも継続して東日本大震災における復興課題の共有を目指しながら、新たなフェーズに対応すべき検討を行うものとする。また、JIAなどの関連諸団体との連

携も深めていきたいと思ひます。

(3) 地方計画部会

部会長 増田 聡

地方計画部会は、建築計画、都市・地域計画、都市デザイン、コミュニティ・オーガニゼーション等を専門とする研究者・実務家で構成されており、今回の震災復興の過程では、避難所・仮設住宅の設置・運営、復興計画の策定から復旧・復興事業の実施、高台移転等の宅地造成や復興公営住宅の設計建設、復興まちづくりなどの多様な局面で、直接・間接の関わりを求められてきた。

一方で、震災復興の各場面では、福祉・教育・産業等を含む多方面のステークホルダーの参加が重要であるとも考えられ、部会会員を含めた「諸主体の橋渡し」を実現し、更なる連携交流の推進が求められる。そこで、地方計画部会では、みやぎボイス連絡協議会(構成メンバーは、以下の通り。(公社)日本建築家協会東北支部、みやぎ連携復興センター、(一社)東北圏地域づくりコンソーシアム、共創する復興推進プロジェクト研究会(民間企業で構成))とともに、「みやぎボイス2015:復興を橋渡しするもの」の開催に向けて、その企画段階からイベント運営にあたった。

地方計画部会としての具体的な成果は、まず、初日(2015.04.11)の「復興状況の報告」において、東松島市等における計画体系及び内容の見直しに関わる話題提供を行い、地方人口ビジョン・市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定等の関連も踏まえた問題提起を行った。次に初日午後及び翌日には、中心市街地・平野部・半島部という地域区分毎にラウンドテーブルを実施し、震災直後のビジョン共有から復興事業の実施、まち開き等までの経験の共有化や、集中復興期間後の諸課題の検討を行い、最終報告書にまとめて公表した。みやぎボイスの狙いである「現場・現地の経験・工夫の共有化」は、テーブル周りの参加者を含めて一定程度実現できたが、様々な制度的制約もあり、福祉系専門家との情報交換などの面で、残された課題があることも確認できた。

(4) 構造部会

部会長 木村 祥裕

構造部会では、昨年度に引き続き、2011年の東北地方太平洋沖地震により被災した鉄骨置屋根構造を有する体育館を対象とした、建築研究開発コンソーシアムの研究会「鉄骨置屋根構造の耐震に関する研究」(委員長:柴田明徳 東北大学名誉教授)開催し、置屋根構造体育館の補強方法のあり方を検討してきた。

また、昨年度に引き継ぎ、2/10には建築学会東北支部とJSCA東北支部の共催による講演会「コンピュータによる骨組構造解析の裏側 —Eディフェンス・コンテストへの応募を中心に—」(講演者:長崎大学名誉教授 修行稔先

生)を開催した。大学教員、構造設計者や学生など約100名が出席した本講演は、源栄正人支部長のご挨拶に始まり、数値解析プログラムの最前線とE-ディフェンスでのブランドコンテストについて約1時間半にわたるものであった。講演後の質疑や講演後の懇親会では、実務設計者からの質疑が相次ぎ、極めて盛況であった。

このような見学会、講演会を今後も継続的に開催し、建築構造に対する産学官のネットワーク強化を図ってきたい。



後援会の様子(長崎大学名誉教授・修行 稔先生)

(5) 環境工学部会

部会長 小林 光

環境工学部会は、「東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究」を課題としながら、他分野との連携と東北地方のニーズに配慮しつつ部会活動を行っている。主な内容は、部会開催時に上記に関連する研究者による勉強会、市民向けあるいは専門技術者向けの研究会・見学会等の開催などである。空気調和・衛生工学会東北支部をはじめとする関連学協会との共催や、日本建築士会東北支部と相互に活動情報の交換を図っている。東日本大震災発生以降、震災関連住宅における健康影響の低減対策に関する研究WG、大規模災害時の停電による空調・給排水衛生設備の凍結対策技術WG、放射線環境WGを設置し、支部の特色やニーズを反映した調査活動等に取り組んでいる。また、本年は当部会にて「親と子の都市と建築講座」として、平成27年10月24日、宮城教育大学附属図書館スパイラルラボにて、災害が厳寒期に発生した場合の避難について北海道大学の森先生、厳寒期の避難の演習などに取組まれている日本赤十字北海道看護大学の根本先生を講師にお招きし、「冬の避難所でどう過ごす?～避難所運営のゲーム体験ワークショップと講演～」を実施した。今年度の部会活動を列挙すると下記の通りである。

1.部会および勉強会の開催

- ① 4/1 第1回部会、② 1/6 第2回部会

2.研究会などの開催

- ① 12/9 見学会「アクアマリンふくしま」
② 2/5 フォーラム後援「Rapid Development of Global Heat Island Mitigation Studies and Countermeasures」
③ 3/11 研究会後援「空衛学会東北支部第5回学術技術報

告会」

- ④ 3/29 シンポジウム後援(開催予定)「震災復興の現在と将来～現地からの報告～」

(6) 材料部会

部会長 有川 智

材料部会では、ライフサイクルエンジニアリングに関する検討を始めるとともに、「津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究」に引き続き取り組んだ。本研究課題は、平成25年度に支部助成を受けて以降、継続して行なってきたものであり、結果の一部はH28年2月発行の本会技術報告集(第22巻・第50号・pp.377-380)に掲載され、一定の成果を収めたと考えている。本年度開催した部会会議は次の通りである。

第1回部会は、みちのくの風2015にあわせて6月21日に山形大学で開催され、今年度の活動内容について意見交換を行なうとともに、技術報告集に投稿した「東北地方太平洋沖地震による津波被害を受けたコンクリート材料の塩分浸透状況に関する調査」について議論した。第2回部会は10月22日に開催され、調査研究事業の進捗状況を確認したほか、11月2日開催の災害シンポジウム講演者として材料部会から推薦した板垣委員(秋田県大)より「復旧・復興における木造建築と地域木材を活用した取組み」と題した報告があり、講演内容について質疑がなされた。第3回部会は2月17日に開催された。前半は施工部会との合同部会として、西脇委員(東北大)からオランダ滞在報告が行なわれ、現地での研究生活のほか建築・インフラの維持管理実態や建設業界のイメージ戦略など興味深い発表内容に対して活発な意見交換が行なわれた。

ここ数年、委員の退職等が相次ぎ、必ずしも充実した部会活動が行われているとはいえない状況にあったが、来年度は新たな研究テーマのもと、民間企業や大学院生等の参画を促し、他部会とも連携しながら事業の活性化を図っていく予定である。

(7) 施工部会

部会長 最知 正芳

施工部会では、平成27年度の活動として、5回の定例会と7回の出前講義を実施した。

定例会では毎回、年度ごとに設定されたテーマに沿った形で、委員からの課題提起とそれに基づく討議を行っているが、本年度は前年度からの継続テーマである「実務における倫理問題」の他に「震災後の主要なプロジェクトの紹介」を新たに加え、活発な意見交換が行われた。

倫理問題では、各団体での取り組みの把握を行うと共に、施工側だけの問題としては捉えきれない奥深さのあるテーマであることがクローズアップされ、一方、プロジェクト

紹介では、災害復興関連のものに留まらず、東北各地の最新プロジェクトについて、工法や構法に関する事項などを中心に様々な知見を得ることができた。

また、年度末の定例会では、材料部会との合同による報告会も行われた。研究領域としては、相互に関連性のある事案も少なくないと思われることから、今後、両部会の交流の活発化も期待できる。

仙台市内大学の大学院への出前授業は、数年前から試行され、部会本来の活動とは一線を画するものではあるが、部会の委員の大多数が建設実務に長けた主要建設会社の技術幹部で構成されているという、当部会の特色を生かせる活動として、ほぼ定着してきているものである。

本年度も延べ7名の委員が出講し、現場見学や座学を通して、建築学を専攻する院生への教育に一定の貢献ができたものと考えられる。

本年度の活動をまとめると大略次のようになる。

<定例会>

2015年05月28日(木) 東北支部事務局 出席10名

2015年07月28日(木) 東北支部事務局 出席10名

2015年10月28日(木) 東北支部事務局 出席10名

2015年12月28日(木) 東北支部事務局 出席08名

2016年02月28日(木) 東北支部事務局 出席13名

<出前授業>

2015年10月～2016年1月 出講委員 延べ7名

(8) 建築デザイン教育部会

部会長 櫻井 一弥

2015年度は、6月の「みちのくの風」に合わせて開催した「第1回建築デザイン発表会」の開催を大きな事業の一つとした。建築デザイン発表会の終了後に、部会員による「第1回建築デザイン発表賞」の選考を行った。また、もう一つの大きな事業として、2014年度よりJIA（日本建築家協会東北支部）との共催で実施している「建築学生テクニカルセミナー2015」を本年度も実施し、実りある成果が得られた。

第1回建築デザイン発表会は、2015年6月20日（土）10:00～11:10に、「みちのくの風2015」内の事業として山形大学文化ホールにて行われた。応募7講演のポスター掲示と発表があったが、デザイン発表会らしく、個別の建物のデザインからリノベーション、ワークショップの運営に関わるものなど、様々な視点からまとめられたバラエティに富んだ内容であった。

建築学生テクニカルセミナー2015は、2015年12月5日（土）14:00～17:30に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで行われ、学生約80名、一般市民約20名、建築関係者約50名の計約150名が参加した。本部会からも数名の部会員が参加し、学生の作品に対する学内評価をコメントするなど、重要な役割を担って戴いた。

実施期間が前後するが、上記2つの大きな事業に加えて、

第19回JIA東北建築学生賞に対する本部会からの審査員派遣を行った。実施日時は2015年10月23日（金）12:30～17:30、実施場所はせんだいメディアテーク1階オープンスクエアである。2014年度より実施しているものであるが、建築実務界と教育機関との重要な交流の場として機能していると考えられる。

2016年度は、一部部会員の交替を予定しており、新規に加わって戴く部会員からも様々な意見を頂戴しながら、建築デザイン発表会と建築学生テクニカルセミナーの開催を大きな二つの柱として事業を進めていく予定である。

(9) 災害調査連絡会

部会長 前田 匡樹

災害調査連絡会では、災害が発生時、支部内の各研究会や会員が実施する調査活動に関して、本部の災害委員会など関係組織と緊密に連携して効果的に実施できるように連絡・調整を図ることを目的として、設置されている。2015年度は、連絡組織体制を整備した。支部内の8研究会（構造部会、材料部会、建築計画部会、地方計画部会、歴史意匠部会、施工部会、環境工学部会、建築デザイン教育部会）の部会長と（必要に応じて）連絡担当者、及び、本部災害調査委員会の東北支部代表委員（板垣直行・秋田県立大）から構成される名簿を作成し、連絡体制を整備した。幸いにして、2015年度は支部全体での組織的な調査を必要とする災害は発生しなかったが、今後の有事の際には円滑な連絡・調整を行うべく準備をしている。

また、2015年度は本部災害委員会の費用援助を受けて、市民講座シンポジウム「東日本大震災からの復興の歩み～これからの地震に備える～」(2015年11月2日(月)、せんだいメディアテーク7階スタジオシアター)を開催した。シンポジウムは、第1部「東日本大震災からの復旧・復興の現状」と第2部「これからの防災・減災に対する備え」の2部構成で、9名の専門家からの講演と質疑応答を行った。専門家及び一般市民あわせて約100名の参加者ととともに、東日本大震災からの復旧・復興に関する活動や現状、及び、来るべき今後の地震に備えた防災・減災対策について、共有することができた。なお、詳細については、本誌のp.2の報告を参照されたい。

2016年4月には熊本地震が発生するなど、日本各地で災害が頻発し、今後の発生も懸念されている。災害調査連絡会では、今後の災害発生時の調査体制を整備し災害に備えるとともに、防災・減災対策に資する活動を継続していく予定である。

支所だより

青森支所

青森支所長 盛 勝昭

2015年度の青森支所の活動状況について報告いたします。

5月20日に第1回幹事会を開催し、講習会等の年間事業計画および収支予算等を議決・承認しました。その後も幹事会を開催し、事業の実施に向けて細部を検討してまいりました。

7月1日に開催した恒例の「全員協議会」では、幹事会で議決された事業計画を報告し、全員に協力をお願いするとともに、親睦を深めました。また、青森県立青森工業高等学校教諭の長内幸広様を講師にお迎えし「高校生の建築コンペの取り組み紹介」と題し、過去に入賞した作品を例に、これまでの取り組みと現状を紹介していただきました。



高校生が応募できる建築コンペの種類は多いが、いい作品を作る力をつけるのが、指導者の目標であるなど、担当された教諭ならではのお話を伺うことができました。

10月11日、12日に、2015年度の『東北建築賞受賞作品展示会』が、八戸工業大学を会場に開催され好評を博しました。

3月18日には100年に一度といわれる、弘前城本丸石垣修理事業に伴う天守曳き屋工事をご担当された地元弘前市の(株)西村組副社長竹内昭三様にご講演会をいただきます。

青森支所では、今後も地域にねぎした活動で貢献してまいります。

秋田支所

秋田支所長 山口 邦雄

秋田支所主催の秋田県工業系高校生による建築設計コンクールが今年で44回目となり、9団体の後援を得て、参加6校、参加生徒37名、応募14作品で盛大に行いました。

今回は、人口減少・高齢化の進展を踏まえた地域活性化をテーマとした作品が多く、また機能複合等の規模の大きい施設計画の多かったことが特徴として挙げられます。それぞれに高校生らしい感性で検討されていました。一方で、

コンセプトが多岐にわたり詰め込み過ぎではないか、施設計画はしっかりしているのでもう少しエクステリア部分での書き込みがほしい、といった意見が審査会で出されました。最優秀賞には、秋田工業高等学校生徒3名による「秋田の挑戦・Milky Way ～明日にかける橋～」を選定し、2月14日には他賞も含めた形での表彰式を公開で行いました。

この他にも、建築学会東北建築賞受賞作品や全国大学・高専卒業設計の展示、秋田県建築士事務所協会主催による「第28回秋田の住宅コンクール」の後援と審査員の派遣など、他団体との連携にも力を注いでいます。



表彰式



最優秀賞作品の一部

岩手支所

岩手支所長 勝又 賢人

2015年度の岩手支所の活動状況について報告します。

平成27年11月27日(金)に「第39回盛岡市都市景観シンポジウム」が盛岡市主催のもと開催され、当支所などが後援いたしました。

今回のシンポジウムでは、平成28年の「希望郷いわて国体・いわて大会」の開催を目前に盛岡の広告景観を考える機会として、「盛岡のまちなみと屋外広告物」と題し、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、講師に古木治郎氏(国土交通省都市局公園緑地・景観課景観・歴史文化環境整備室 景観企画係長)を迎え、「地域の特性と屋外広告物のあり方」と題して、国内外の屋外広告物の取組み事例を紹介しながら、まちの魅力向上に資する屋外広告物のあり方について御講演いただきました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターに中村孝幸氏(一社)岩手県建築士会副会長)をパネリストに、まちづくりNPO、屋外広告業、専門学校生の方々などを迎え、「盛岡のまちなみと屋外広告物」と題して、盛岡のまちなみと屋外広告物の現状と今後のあり方について意見が交わされました。まとめとして、盛岡の景観が国体などをきっかけとした交通網整備に伴い変化してきたことを指摘しつつ、屋外広告物は規制を行った上でデザイン性の高い看板等を競いながら増やしていくことが望まれることなどが提起されました。

また、平成27年10月30日(金)及び11月1日(日)

には「第35回東北建築賞作品展示会」をいわて県民情報交流センター（アイーナ）にて開催いたしました。

岩手支所では今後も、地域で開催される建築関係の活動等に対し後援などを行うとともに、機会を捉えて地域社会との交流を図る諸事業の実施に努めてまいります。

山形支所

山形支所長 相羽 康郎

例年親子の建築講座を継続してきたが、本年度はそれだけでなく、「山形のまちと建築」3回連続企画を実行した。

1. 親子の建築講座：11月17日13:50～15:00

山辺町山辺中学校新校舎階段教室で、2年生150名他を対象に1コマ目「地の街並み 図の建築」：相羽康郎（東北芸術工科大学）、2コマ目「建築家の仕事」：水戸部裕行（羽田設計事務所）を行った。1コマ目で、大工・工務店によって形成された街並み（地）に対し、建築家は図となる様式建築、近代以降公共住宅や国際様式、現代の自由な形の目印作品を設計したこと、大正時代まで日本の街並みは揃いの景観だったが、以降個別バラ建ちとなり、近年建築家設計の街並みが出現したことを画像で示した。2コマ目では、プロポーザルコンペの提案内容、ワークショップや、摩擦杭を始めとする工事過程などを画像で示した。直後の質問では、校舎の使い勝手等に関わる質問が次々に発せられ、昔の校舎との差に対する中学生なりの疑問に、設計者として説明するよい機会ともなった。前部に置いた大きな模型、分厚い設計図書を順に見てさらなる質問も受けた。

2. 山形のまちと建築 3回シリーズ

(1) 磯達雄(建築ライター):10月10日15時～:ヤマコーホール17名

市内中心部に残る名建築を選択解説していただいた後、街歩きを行った。スズラン街防火建築帯の服飾店から屋上まで上がらせていただき眺めると、揃いの街並みが見事であった。電通ビルの井型構造と同じと指摘のあった旧殖産銀行社屋や、城内閉館間際の図書館などを巡り、薄暗くなった駅前で防火建築の存在を改めて確認した。



山形市内スズラン街の防火建築帯

(2) 栢木まどか(東京理科大):11月28日15時～:ゆうキャンパス・ステーション7名

関東大震災の復興に関わる不燃共同建築が概ね10名以下の地権者数のもとで実行されたこと、権利者の地割に合わせて柱割されていたこと、佐野利器の指導による助成制度と展開、共同化のさまざまな様態、震災後各区分RC造

建設棟数の急増等が詳細なデータにより説明された。

(3) 藤岡泰寛(横浜国立大):2月6日15時～:ゆうキャンパス・ステーション14名

震災後の篤志家の先進的な不燃化建築の試み、都市不燃化同盟の組織活動を経て、横浜の震災復興不燃共同建築ができ、しかしそれらが帯になってはいないこと、建設省を依願退職し横浜市建築局長になった内藤亮一が先進的な防火建築施策を実行したこと、個別の設計工夫事例等が説明された。横浜の特殊な事情（東京との位置、GHQ 接收）、不燃共同化より RC 構造化に重きがあったのでは等議論された。

福島支所

福島支所長 蓮沼 敏郎

2015年度の福島支所の活動状況について報告いたします。

今年度は、『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』の活動や建築関係団体との連携による『建築士事務所キャンペーン』の共催、『第35回東北建築賞受賞作品展示会』を中心に活動しました。

『福島県歴史的建造物保全活用促進協議会』では、歴史的建造物を保全・活用し、本県の建築文化を育み、美しい景観等を実現するため、歴史的建造物の保全活用の専門家（ヘリテージマネージャー）の育成、派遣、活用等を行いました。

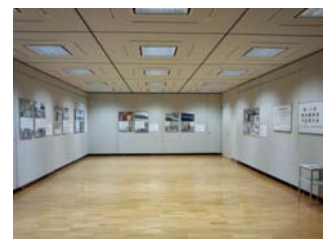
2015年11月20日に白河市で開催した『建築士事務所キャンペーン』では、「技術セミナー」として、住宅・建築並びに震災復旧復興に関わる最新の技術、材料、工法等のプレゼンテーションを行うとともに、「住宅・建築相談会」を開催し、被災復旧に伴うリフォームや耐震改修を計画されている方に対し、一級建築士等の専門家が相談に応じました。

また、「講演会」では降幡廣信氏から「民家の再生」と題し、降幡氏が手掛けた物件について体験談を交えて講演いただき、伝統的建築物を守り繋ぐ古民家の再生について理解を深めました。



講演の様子（降幡 廣信氏）

『第35回東北建築賞受賞作品展示会』については、2月23日から25日までの3日間、郡山市にて、「JIA福島2015作品展」及び「日本大学工学部卒業設計展」と合同で開催しました。学生の想像力溢れる意欲的な作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで、数多く



東北建築賞受賞作品展示会

の建築作品が並び、見応えのある作品展となりました。

今後も学術的な研究等を、福島復興・再生や地域創生に向けて広く還元し、発信するため、地域の教育機関や関係団体と連携・協働しながら、地域に根差した支所活動や事業の更なる充実に努めてまいります。

支部役員会から

常議員（総務企画）高橋 典之

支部役員会は、支部長と14名の常議員で構成される。常議員は、会務を処理するため、支部役員会において会務を審議し、議決するものと定められており、東北支部全体の運営を担っている。支部役員会は、年2回以上支部長が招集することとされているが、基本的には隔月程度の頻度で開催されている。

本年度は、支部役員会が5月、7月、9月、11月、2月、（本稿執筆時点では実施されていないが3月も開催予定）に開催され、粛々と会務の処理を行うことができた。これらの議事録は、東北支部のウェブサイトにおいて一般公開されている。また、支部役員会の開催に際しては、Skypeを介しての参加も可能としており、移動時間削減に伴う出席者の増加と、旅費削減に効果を上げている。

さらに、恒例となっている支部研究報告会を核とした「みちのくの風」の運営でも中心的な役割を果たしている。本年度は「みちのくの風 2015 山形」と題して、第78回東北支部研究報告会と併せて第1回東北支部建築デザイン発表会が開催され、6月20日（土）・21日（日）を会期に、山形大学地域教育学部1号館・文化ホールを会場に開催された。20日は、渡辺竜一氏（株）ネイ&パートナーズジャパンをお招きし、「美しいデザインを地域と共有する～構造と意匠の融合の先に～」と題してご講演をいただいた。さらに21日には、五十嵐規矩夫氏（東京工業大学）をお招きし、「薄板化鋼構造部材の可能性と座屈設計法」と題してご講演をいただいた。

この他、支部長と総務・企画担当常議員は4月に総務会を開き新年度の準備に当たったほか、9月には支部長・総務企画担当常議員も出席して支所長会議を実施し、みちのくの風、日本建築学会文化賞の推薦、次年度からの支所交付金の取り扱いについて報告・審議と意見交換を行った。

2015年度の支部役員会で取り上げられた主な議事を以下に示す。

■4月総務会（2015年4月28日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、決算報告、常議員選挙結果・役割分担、支部年報編集報告 [審議事項]総会資料（シンポジウム・懇親会）、みちのくの風 2015 山形、建築デザイン発表賞審査内規、後援依頼

■5月支部役員会（2015年5月23日開催）

[新旧役員の引継ぎ] [報告事項]理事会報告、総会進行確認、みちのくの風 2015 山形・業務確認、会計報告、災害委員会支

部企画申請報告、東北建築賞募集要項 [審議事項]支部長代行者

■7月支部役員会（2015年7月31日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、総会報告・引継ぎ事項、みちのくの風 2015 山形開催報告、作品選集 2016 応募作品と支部選考部会審査経過、本会設計競技支部審査報告、災害委員会支部市民企画採択報告、JIA 東北支部後援依頼承諾、立替払および概算払い事業費清算、本会大会（東北）、東日本大震災災害調査報告 CD-ROM 発刊報告、東北建築賞応募件数 [審議事項]みちのくの風 2016、本会文化賞推薦依頼、本会教育賞推薦依頼、本会大賞推薦依頼、東北建築賞研究奨励賞、災害調査連絡会組織図と災害委員会市民企画、セメント協会と JIA 東北支部からの後援依頼

■9月支部役員会（2015年9月16日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、作品選集 2016 支部審査報告、17 期代議員および次期支部役員選挙、東北建築賞応募報告および東北建築作品発表会、災害委員会市民企画シンポジウム、支所交付金の取り扱い、設計競技支部入選 [審議事項]みちのくの風 2016 宮城、支部総会日程、支部ホームページ、支部建築賞内規改定関連事案

■11月支部役員会（2015年11月25日開催）

[報告事項]会計報告、代議員・支部長・常議員候補者届出報告、災害委員会支部市民企画開催報告、東北建築作品発表会、東北建築賞研究奨励賞選考委員会、マイナンバー制度に伴う支部職員と納税、空調工学会から協賛依頼承諾、事務局雇用契約 [審議事項]選挙管理委員会設置、2016 年度支部総会日程・会場・担当・付随行事、みちのくの風 2016 宮城、支部研究報告集会論文募集スケジュール・募集要項、建築デザイン発表会募集要項、2016 年度予算案、支部ホームページ、支部年報発刊、支部研究補助費申請、作品選集東北支部部会次期委員選出、設計競技全国審査員と支部審査委員選出、全国大学高専卒業設計展示会会場確認、「建築学会女性会員の会」

■2月支部役員会（2016年2月24日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、支部研究補助費申請報告、東北建築賞作品賞選考報告、鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準講習会、共催依頼・協賛依頼・後援依頼承認報告、創立 130 周年記念事業市民向け・支部関連企画、大崎市田尻総合支所保存要望書提出報告 [審議事項]みちのくの風 2016 宮城、支部総会付随行事、建築文化事業開催、東北建築賞作品賞・研究奨励賞の内規と募集要項改正、支部ホームページ

■3月支部役員会（2016年3月29日開催）

[報告事項]理事会報告、会計報告、2016 年度全国・大学高専卒業設計展示会の日程報告、第17期代議員選挙の結果報告、平成 27 年度委託研究事業完了報告、支部研究報告会・デザイン発表会論文提出報告、支部年報第 36 号編集状況報告、みちのくの風 2016 宮城 [審議事項] 支部総会の付随行事（シンポジウム）企画、支部総会の案内状発送者リスト確認、2016 年度「建築文化事業」開催、支部ホームページ、東北建築作品賞・研究奨励賞の内規と募集要項改正、2016 年度支部企画の募集

2016年度 支部役員名簿

東北支部常議員の構成と役割分担

役 割	2015年度 (2015年6月～2016年5月)	2016年度 (2016年6月～2017年5月)
支部長	源栄正人 (東北大)	小林淳 (秋田県立大)
総務企画	有川 智 (東北工大) サンジェイ・パーク (日大) 永井康雄 (山形大) 高橋典之 (東北大)	永井康雄 (山形大) 高橋典之 (東北大) 不破正仁 (東北工大) 野内英治 (日大) 山口邦雄 (秋田県立大)
社会文化	手島浩之 (設計集団/UAPP) 小林 光 (東北大) 荻谷哲郎 (秋田県立大)	福屋粧子 (東北工大) 安田直民 (SOYsource建築 設計事務所) 野村俊一 (東北大)
学術教育	川村広則 (東北文化学園大) 福屋粧子 (東北工大) 齋藤俊克 (日大)	齋藤俊克 (日大) 一條佑介 (東北文化学園大)
会計会員	志賀俊輔 (仙台市) 濱口雅義 (JR 東日本)	志賀俊輔 (仙台市) 濱口雅義 (JR 東日本)
図書情報	宮腰直幸 (八戸工大) 藤田智己 (仙台高専)	藤田智己 (仙台高専) 小藤一樹 (八戸工大)
事務局	伊藤章子 瀧 美雪	伊藤章子 瀧 美雪

研究部会長

研究部会	部 会 長
構造部会	木村 祥裕 (東北大学教授)
材料部会	西脇 智哉 (東北大学准教授)
建築計画部会	坂口 大洋 (仙台高等専門学校教授)
地方計画部会	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠部会	崎山 俊雄 (東北学院大学准教授)
施工部会	飯藤 將之 (仙台高等専門学校教授)
環境工学部会	小林 光 (東北大学准教授)
建築デザイン教育部会	櫻井 一弥 (東北学院大学教授)
災害調査連絡会	前田 匡樹 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2016年4月1日現在)

名誉会員	2名
終身会員	54名
正会員 (個人)	1,114名
正会員 (法人)	34法人
準会員	36名
賛助会員	7法人

東北支部監事

2015年6月～2017年5月
佐藤 大作 (JR 東日本)
笹淵 優樹 (仙台市)

東北支部選出代議員

任 期	代 議 員
2015年4月 ～ 2017年3月	佐藤 健 (東北大学教授) 杉山 敬宏 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社設備部 工事課建築担当課長)
2016年4月 ～ 2018年3月	浅里 和茂 (日本大学教授) 五十子 幸樹 (東北大学教授) 西田 哲也 (秋田県立大学教授)

支所長

支 所	支 所 長
青森支所	盛 勝昭 (株盛興業社 代表取締役)
秋田支所	荻谷哲朗 (秋田県立大学システム科学技術部教授)
岩手支所	廣瀬公亮 (岩手県県土整備部建築住宅課総括課長)
山形支所	相羽康郎 (東北芸術工科大学教授)
福島支所	村井弘道 (福島県土木部建築住宅課長)

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2015 年 4 月 1 日
2015 年度事業報告	
	至 2016 年 3 月 31 日

〈事務の部〉

総 会	1. 2014 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2015 年度事業計画・予算案 3. 日本建築学会東北支部規定変更	2015 年 5 月 23 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (1)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、設計競 技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (1)、作品選集支部選考部会 (2) その他部会など開催	() は回数
代議員半数改選	(留任) 木村祥裕、濱田幸雄 (新任) 佐藤 健、杉山敬宏	2014 年 4 月～2016 年 3 月 2015 年 4 月～2017 年 3 月
支部長改選	(留任) 源栄正人	2014 年 6 月～2016 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 後藤伴延、小地沢将之、佐藤慎也、許 雷、日比野巧 笹淵優樹、佐藤大作 (留任) 有川 智、苅谷哲朗、川村広則、小林 光、宮腰直幸 サンジェイ・パリーク、手島浩之 (新任) 永井康雄、高橋典之、福屋粧子、齋藤俊克、志賀俊輔 濱口雅義、藤田智巳	2013 年 6 月～2015 年 5 月 2014 年 6 月～2016 年 5 月 2015 年 6 月～2017 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	笹淵優樹、佐藤大作	2015 年 6 月～2016 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 有川 智 津波を受けた建築材料の品質管理に関する調査研究 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 崎山俊雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 最知正芳 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 前田匡樹 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究 助成金による研究	・震災復興における施設整備・都市計画と生活再建との橋渡し 地方計画部会 (研究代表者 増田 聡)	2015 年 4 月～2016 年 3 月
支部研究報告会	2015 年度第 78 回東北支部研究報告会 研究報告集第 78 号計画系・構造系刊行 発表題目 91 題	2015 年 6 月 20 日～21 日 山形大学
デザイン 発表会	2015 年度第 1 回東北支部デザイン発表会 発表題数 7 題	2015 年 6 月 20 日 山形大学

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 東日本大震災からの復興の歩み～これからの地震に備える～</p> <p>2) 第26回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第36回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2015山形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演会 ・第35回東北建築賞表彰式 ・第1回建築デザイン賞表彰式 ・第35回東北建築賞受賞作品展示会、JIA山形等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座(山形支所)</p> <p>2) 親の子の建築講座(歴史意匠部会)</p> <p>3) 親と子の建築講座(環境工学部会)</p> <p>4) 第35回東北建築賞作品展示会 仙台市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2015年11月2日</p> <p>2015年10月3日</p> <p>2015年10月～2016年1月</p> <p>2015年6月20日～21日 山形大学</p> <p>2015年11月17日</p> <p>2015年10月12日</p> <p>2015年10月24日</p> <p>2015年6月～2016年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第35回東北建築賞 作品賞部門作品賞5点、特別賞2点、</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰代表者2名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員3名、法人会員5社、賛助会員1社</p>	<p>2015年6月20日 山形大学</p> <p>2015年5月23日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第35回東北建築賞受賞作品展示会：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞受賞作品展示会：由利本荘市 ・第44回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35回東北建築賞受賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の建築講座 ・第35回東北建築賞受賞作品展示会：山形市 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第35東北建築賞受賞作品展示会：郡山市 	<p>2015年7月</p> <p>2015年10月10日・11日</p> <p>2015年10月3日～6日</p> <p>2016年2月11日</p> <p>2015年10月30日・ 11月1日</p> <p>2015年11月17日</p> <p>2015年6月20日・21日</p> <p>2016年2月23日～25日</p>
刊行活動	<p>支部年報第35号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第78号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第26号)発行</p>	<p>2015年5月23日</p> <p>2015年6月20日</p> <p>2015年10月3日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	<p>建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事 改定講習会</p>	<p>2015年8月4日 ハーネル仙台 参加者：108名</p>
展示会	<p>全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市</p>	<p>2015年7月～2015年11月</p>
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：「もう一つのまち・もう一つの建築」 ・日本建築学会「作品選集2016」東北支部選考部会 	<p>2015年7月14日 支部事務所会議室</p> <p>2015年6月～9月 支部事務所会議室</p>

一般社団法人 日本建築学会東北支部	自 2016 年 4 月 1 日 至 2017 年 3 月 31 日
2016 年度事業計画（案）	

〈事務の部〉

総 会	1. 2015 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2016 年度事業計画・予算案	2016 年 5 月 21 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、支部役員会 (8)、総務会 (2)、支所長会議 (1)、東北建築賞 作品賞選考委員会 (3)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建 築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技支部審査会 (1)、選挙管理委員会 (2)、作品選集支部選考部会 (2)、研究部会連絡会 (1)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 佐藤 健、杉山敬宏 (新任) 浅里和茂、五十子幸樹、西田哲也	2015 年 4 月～2017 年 3 月 2016 年 4 月～2018 年 3 月
支部長改選	(退任) 源栄正人 (新任) 小林 淳	2014 年 6 月～2016 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 有川 智、荻谷哲朗、川村広則、小林 光、宮腰直幸 サンジェイ、パリーク、手島浩之 (留任) 齋藤俊克、志賀俊輔、高橋典之、福屋粧子、藤田智己 濱口雅義、永井康雄 (新任) 一條佑介、小藤一樹、野村俊一、野内英治、不破正仁 安田直民、山口邦雄	2014 年 6 月～2016 年 5 月 2015 年 6 月～2017 年 5 月 2016 年 6 月～2018 年 5 月
企画運営委員	なし	
支 部 監 事	笹淵優樹、佐藤大作	2016 年 6 月～2017 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 木村祥裕 構造技術における新しい試み 材 料 : 西脇智哉 サステナビリティ確保に向けた建築材料からの取り組み 建築計画 : 坂口大洋 縮退社会における建築計画の課題抽出と実践化 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 崎山俊雄 歴史的建築及び資料の保存・活用に関する研究 環境工学 : 小林 光 東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 施 工 : 飯藤将之 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 櫻井一弥 東北地方の建築デザイン教育の質的向上に関する研究 災害調査連絡会 : 前田匡樹 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる 連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
本部・支部研究助成金による研究	・震災復興の総括ならびに生活再建に関する調査研究 建築デザイン教育部会 (研究代表者 櫻井 一弥)	2016 年 4 月～2017 年 3 月
支部研究報告会	2016 年度第 79 回東北支部研究報告会 研究報告集第 79 号計画系・構造系刊行 発表題目 83 題 2016 年度第 2 回東北支部デザイン発表会 発表題目 4 題	2016 年 6 月 18 日～19 日 東北大学

支部主催 支部共催 イベント	<p>1. 支部主催</p> <p>1) 建築文化週間事業</p> <p>2) 第27回「東北建築作品発表会」の開催(仙台市)</p> <p>3) 第37回「東北建築賞」の選考</p> <p>4) みちのくの風2016 宮城</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究報告会と招待講演、日本建築学会会長基調講演会 ・第36回東北建築賞表彰式 ・第36回東北建築賞受賞作品展示会、JIA 宮城等作品並びに東北支部法人会員技術報告、建築作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座・建築文化週間事業</p> <p>2) 第36回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、由利本荘市、八戸市、郡山市</p>	<p>2016年10月 2016年10月1日 2016年10月～2017年1月</p> <p>2016年6月18日～19日 東北大学</p> <p>2016年9月～10月</p> <p>2016年6月～2017年2月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<p>1. 第36回東北建築賞作品賞部門 作品賞5点、研究奨励賞部門1点</p> <p>2. 日本建築学会設計競技全支部入選者表彰代表者1名</p> <p>3. 日本建築学会功労者表彰 個人会員5名、法人会員2社、賛助会員2社</p>	<p>2016年6月18日東北大学</p> <p>2016年5月21日 せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第36回東北建築賞受賞作品展示会：八戸市 ・講習会 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回東北建築賞受賞作品展示会：由利本荘市 ・第45回秋田県工業系高校生による建築設計作品コンクール <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回東北建築賞受賞作品展示会：盛岡市 <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回東北建築賞受賞作品展示会：山形市 ・「親と子の都市と建築講座」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回東北建築賞受賞作品展示会：郡山市 	<p>2016年7月 2016年10月 2017年2月</p> <p>2016年7月 2017年2月</p> <p>2016年11月</p> <p>2016年6月 2016年7月</p> <p>2017年2月</p>
刊行活動	<p>支部年報第36号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第79号計画系・構造系(第1回東北支部デザイン発表会込) CD-ROM 発刊</p> <p>東北建築作品集(第27号)発行</p>	<p>2016年5月21日 2016年6月18日</p> <p>2016年10月</p>

〈支部共通事業〉

講習会	講習会 「鉄筋コンクリート構造保有水平耐力計算規準」	2016年4月15日 ハーネル仙台
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 山形市、由利本荘市、仙台市、郡山市、八戸市	2016年6月～2016年11月
審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度支部共通 日本建築学会設計競技課題「残余空間に発見する建築」 ・日本建築学会「作品選集2017」東北支部選考部会 	<p>2016年7月 支部事務所会議室</p> <p>2016年6月～9月 支部事務所会議室</p>

法人・賛助会員

阿部建設(株)	(株)阿部重組
(株)工藤組	(株)三上構造設計事務所
(株)関・空間設計	千田総兵衛建築事務所
鹿島建設(株)	(株)本間利雄設計事務所+ 地域環境計画研究室
(株)久米設計	
(株)熊谷組	東日本旅客鉄道(株)
清水建設(株)	東北電力(株)
仙建工業(株)	一般社団法人 東北空気調和衛生工事業協会
大成建設(株)	
(株)竹中工務店	八戸工業大学
鉄建建設(株)	クレハ錦建設(株)
戸田建設(株)	日本原燃(株)
(株)ユアテック	(株)楠山設計
西松建設(株)	(株)ティ・アール建築アトリエ
(株)安藤・間	(株)I N A新建築研究所
堀江工業(株)	(株)東北開発コンサルタント
前田建設工業(株)	山形県立図書館
(株)ピーエス三菱東北支店	日本大学図書館
(株)三菱地所設計	東北芸術工科大学
(株)山下設計	日刊建設産業新聞社
(株)梓設計	
東日本興業(株)	